

商品開発演習

ユーザ・リクアイアメント抽出手法(主観的手法)と
デザインシナリオ

マズローの欲求5段階発達説と戦後日本

自己実現欲求	1980～	自分なりの 創造性	個人の領域
自我欲求 「個」「差」	1970～ 1980	承認の欲求	
社会的欲求 「人並」「型」	1960～ 1970	所属と愛の 欲求	
安全欲求	1945～ 1960	保障・安全・ 生命維持の 欲求	産業の領域
生理的欲求			

デザインシナリオの必要性

- ユーザのニーズをつかみにくい時代への移行
 - 多様化・個性化の進展によって「憧れ＝目標」モデルが無くなった
 - 既存の商品，サービスに対する顧客の反応をベースにしたマーケティング手法では対応できない
- 「仮説提示」による新たなマーケティングおよび商品開発の必要性
 - 「見えないアイデア」の可視化 → 「提案型」
 - 提案内容に対するユーザの反応を得る
 - ユーザとの間のコンセンサス → 「共創」

デザインシナリオ

- モノの提案からコトの提案へ
- ユーザーを主役としたドラマづくりー商品は演出の道具
- 誰がどのような場面でどのように商品を使うのかーコトラーの60に関連
- 三不:「不満」,「不安」,「不思議」は新商品開発のネタ
 - 不満 → 満足
 - 不安 → 安心
 - 不思議 → 納得

参考: 田中央『商品企画のシナリオ発想術』



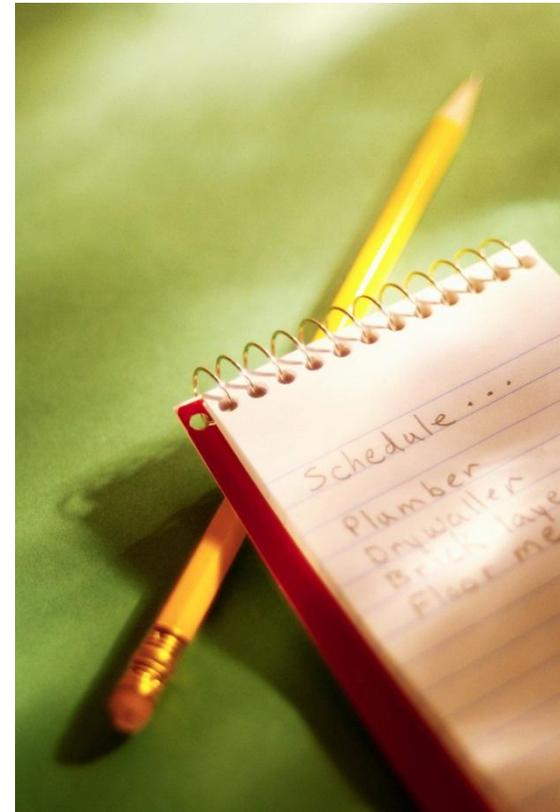
「写ルンです」の発想例

- フィルム・カメラの総合メーカーらしいビジネスアイテムの創造
 - フィルムメーカーでなければできないこと(→フィルム現像と販売が対になっており, カメラにフィルム内蔵化が可能)
- 顧客はカメラがほしいのではなく、写真がほしい
 - 全国に張り巡らせたサービス網の活用(→手ぶらで出かけても必要なときにカメラが手に入る)
- 「いつでもどこでもネットワーク」「ワンタッチ・インスタント」
- 「安価で簡単操作のカメラ」を作るのではなく、「かたちも操作も単純なカメラと、それを支えるサービスシステム」を作る



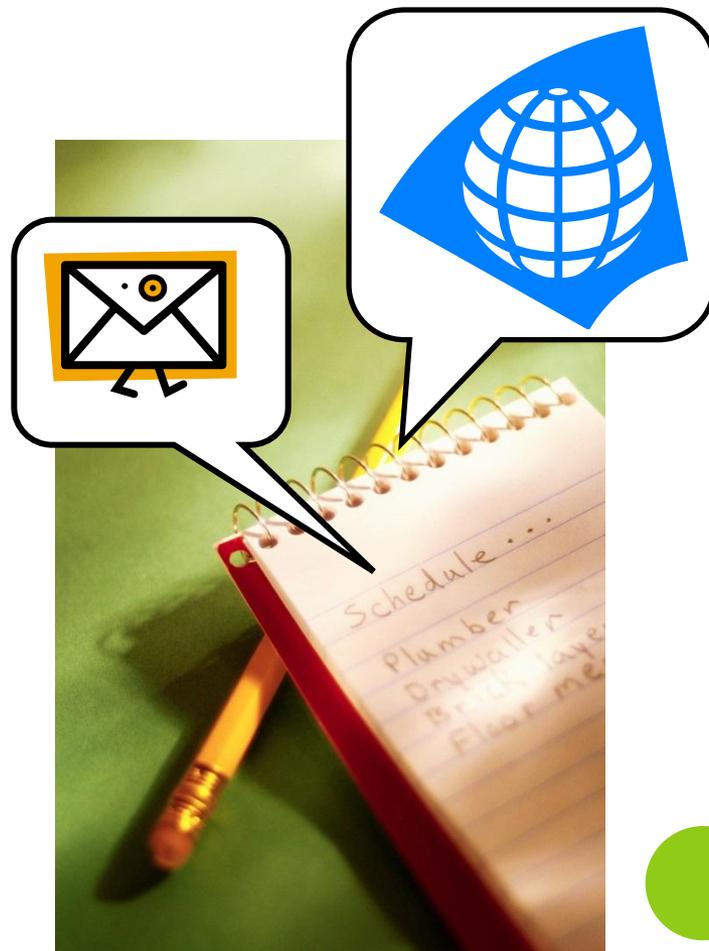
簡単なシナリオの例：未来のノート

- Aさんはいつも一冊の薄いノートしか持ち歩かない
- 出張に行くときもこのノートをかばんに入れておいただけだ
- 時には2つに折り曲げてポケットにしまうこともある



未来のノート(続き)

- 会議の時には、ノートの上端にキーワードを書き込む。そうすると必要な情報がノートの余白に浮かび上がる
- Bさんにメールを送るときには、ノートにメールの文章を書いて線で囲み、「Bさん宛てメール」とメモすれば、準備完了だ
- ページをめくる動作をすれば、書き込んだ情報は、どこかに保存され、ノートは白紙に戻る
- Aさんは、このノートさえあれば、ほとんどの仕事が済むと言う



このシナリオから読み取れるもの

- これは真の「ノートパソコン」である
- ペン入力のような日常動作が主体である
 - キーボードの習熟が不要 = キーボードへの不満解消
 - 誰でも使える
- ノートのように薄く軽い
 - どこでも使える = 持ち運びにくさへの不満解消
 - いつでも使える
- 紙のように折り曲げることが可能である
 - 持ち運びが楽
 - ラフな使い方ができる = 安心

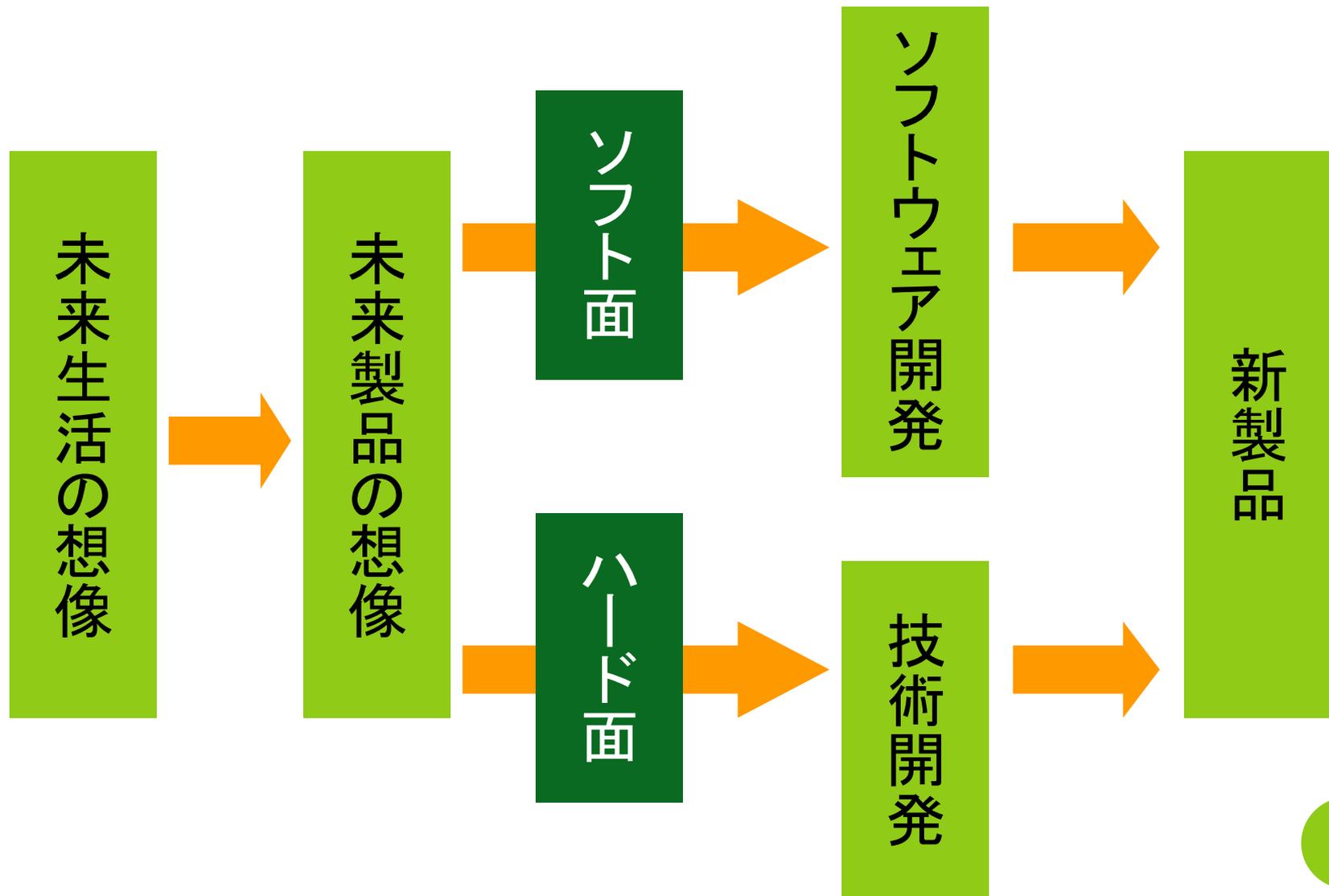


この「ノート」に必要な技術課題は？

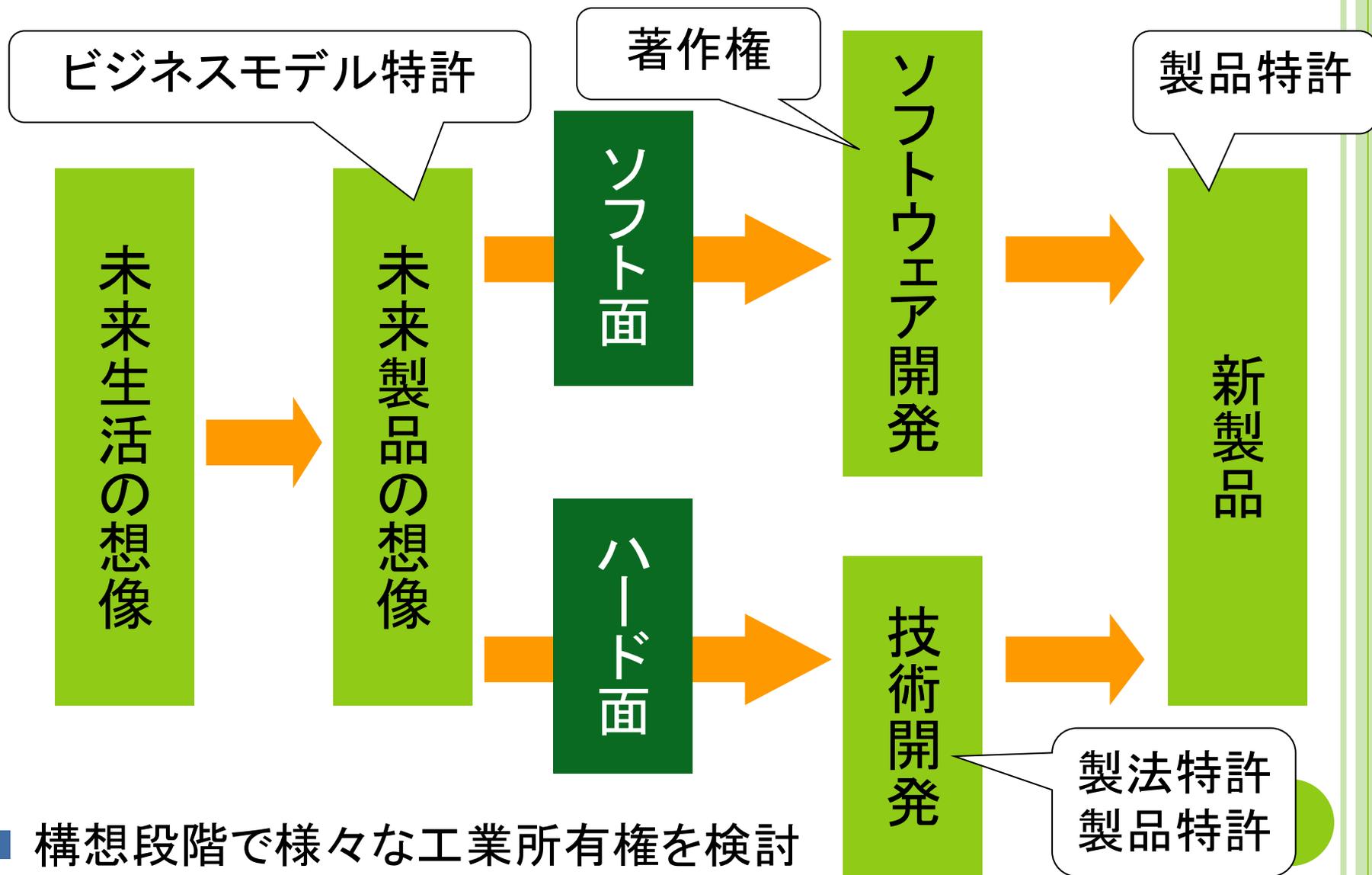
- ペン入力のような日常動作が主体である
 - 手書き入力を発達させる必要性 -> ペンコムを発達させる
- ノートのように薄く軽い
 - ディ스플레이の厚さは？ -> 液晶？ 有機EL？
 - 記憶装置や、通信装置はどこに？
-> 超小型のハードディスク？ ペンの方にメモリー？
- 紙のように折り曲げることが可能である
 - ディ스플레이および筐体の素材は？
-> ゴムや有機EL？ あるいはその他？
 - それらの耐久性は？



デザインシナリオによる製品開発手順



デザインシナリオによる知財戦略展開

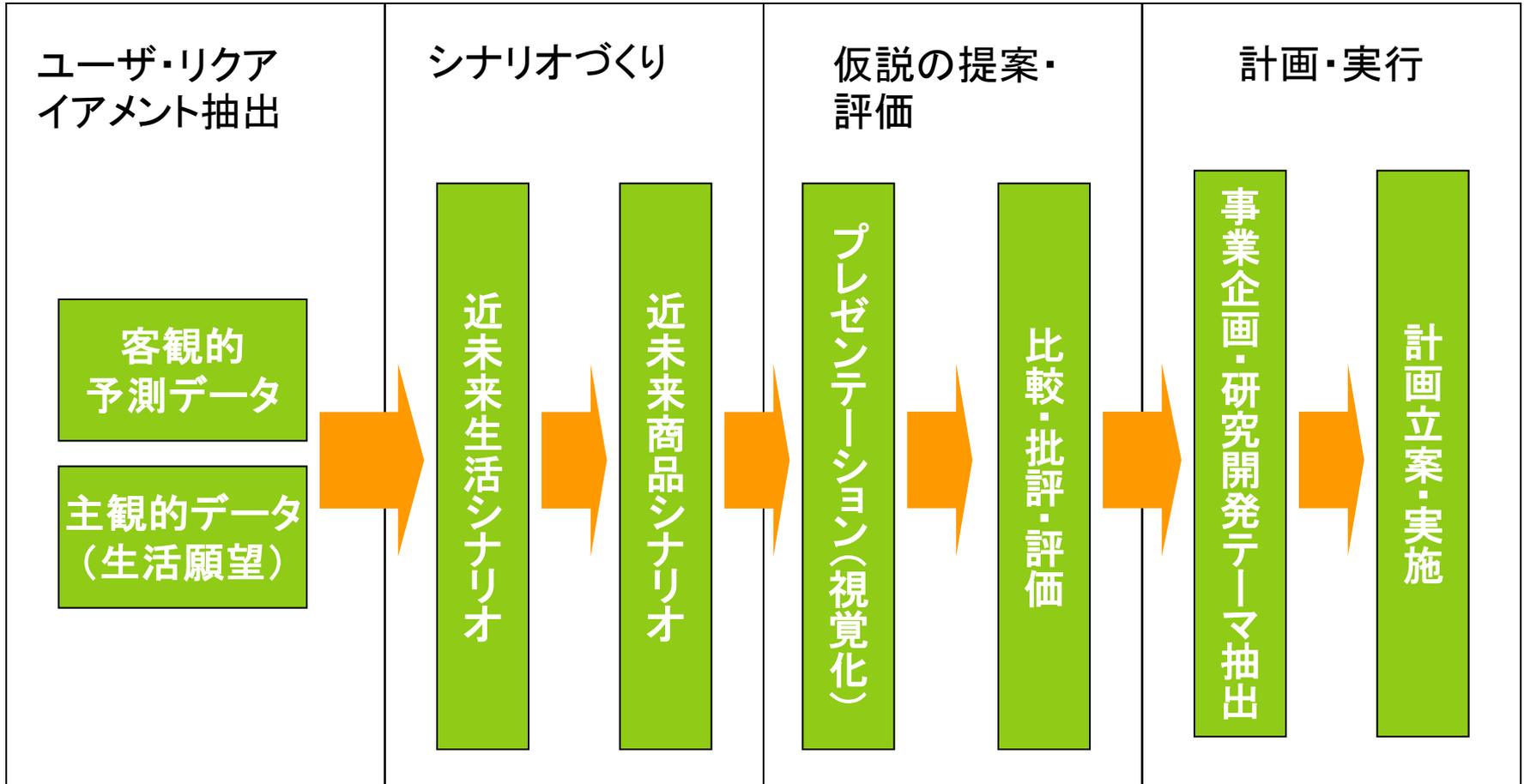


デザインシナリオの効能

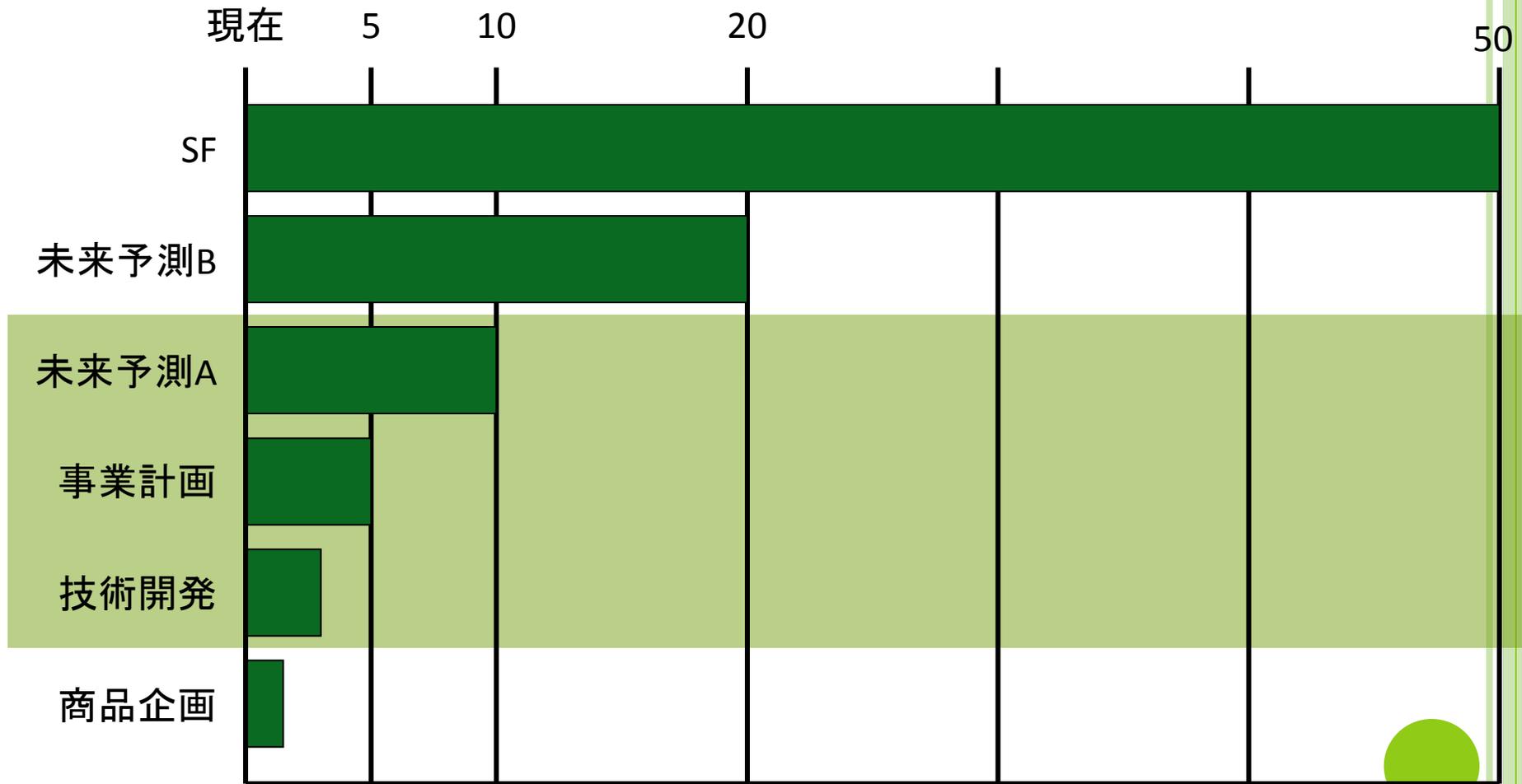
- 製品の具体的なイメージ、製品の使われ方のイメージが得られる
- 必要な技術の全体像に対する見通し
- 同時に、押さえるべき知的財産権の見通しがつき、戦略が立てられる
- 個人消費者、他社など、ユーザに対し、自社の技術の具体的な活用法を提案できる → 技術マーケティングの実現



シナリオづくりのプロセス



シナリオと時間尺度



TRIZの9画面法

システム	上位	電話線 交換機 電柱	通信網 基地局 アンテナ	衛星通信 世界共通規格
	システム	固定電話	携帯電話	ウェアラブル インプラント
	下位	マイク スピーカ	液晶 CCDカメラ 電池	小型燃料電池 人体発電 体温発電
		過去	現在	未来



練習

- TRIZの9画面法を利用して「未来の近距離交通手段」について発想する



近未来の近距離交通手段

システム	上位	道路 信号 駐車場		
	システム	自動車		
	下位	エンジン タイヤ		
		過去	現在	未来



演習課題

- 各自が持ち寄った商品(アイデア)が生かされるシチュエーションを考えてみること
 - どういう場合にその商品(アイデア)が活躍するのか
 - どのようにその商品(アイデア)は使われるのか, そのメカニズム
 - その商品(アイデア)によってどのような不満, 不安, 不思議が解消されるのか?

